

2018年4月2日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

慶應義塾大学 口永良部島プロジェクト×離島キッチン
人口約 100 人の口永良部島の食材・レシピで、島と東京をつなげるレストラン
— Idea キッチン口永良部島を日本橋にて 4/1 (日) にオープン、1ヶ月限定 —

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス長谷部葉子研究会と池田靖史研究会は、離島キッチン日本橋店にて、レストラン「Idea キッチン口永良部島」を、4月1日(日)~30日(金)まで、株式会社離島キッチンの協力を得て開催します。

「Idea キッチン口永良部島」では、口永良部島の食材・レシピを使った料理を提供し、離島と東京を、食を通じてつなげることを目指します。

口永良部島は、屋久島からフェリーで1時間半にある人口約100人の離島であり、若年層の不足に悩まされています。慶應義塾大学が東京と島を繋げることで、口永良部島の認知度を上げて人の流れを生むと同時に、島内部に刺激をもたらし、住民の中に新たな活動を生み出すという、域学連携の1つのモデル形成を狙っています。

ぜひご取材くださいますようお願い申し上げます。

1. 「Idea キッチン口永良部島 by 慶應義塾大学屋久島町口永良部島プロジェクト」について

日時：2018年4月1日(日) 11時~30日(日) 22時

離島キッチン日本橋店営業時間：11時~22時

会場：日本橋 YUITO 地下1階 離島キッチン日本橋店

住所：東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル YUITO 地下1階

主催：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) 長谷部葉子研究会、池田靖史研究会
株式会社離島キッチン

2. 慶應義塾大学屋久島町口永良部島プロジェクトについて

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの長谷部葉子研究会と池田靖史研究会の合同プロジェクトは、「地域・行政・大学の協働による、住民主体の地域づくりの実現」を目指し、それぞれの専門分野である教育と建築を融合させて、2011年から8年間にわたり活動しています。

島に暮らして地域に根ざすことを理念として掲げており、島で家を拝借し、農作業や行事へ積極的に参加しています。学生の中には、半年~1年、口永良部島や屋久島に長期滞在する者もいます。

教育を担当する長谷部研究会は、東京と口永良部島との二拠点で活動しています。東京では、この離島キッチンプロジェクトや、高校生の屋久島・口永良部島ホームステイプログラム「高校生研修」の運営もしています。口永良部島では、島の子どもと共に島について考えながら勉強をする「寺子屋」の開催などの活動をしています。建築の池田研究会の活動は、竹筋コンクリートという、竹を骨組みとする建築物の作成です。島に豊富にある竹を利用して、環境負荷の少ない建築の実現を目指しています。

URL：http://haselab.sfc.keio.ac.jp/?page_id=19

<https://www.facebook.com/yaku.elove.project/>

3. 株式会社離島キッチンについて

株式会社離島キッチンは、「全国の島々を結びつけることで、その力を集結させ、離島の持つ問題を解決・活性化していくこと」をビジョンに掲げる飲食店型アンテナショップです。離島の食材を使いながら、その島の文化や物語を伝えて、全国の離島のネットワークを強化するという点に重きを置いています。

2018年3月28日に新店舗として日本橋店をオープンし、従来型の飲食店とは異なり、島に行きたくなくなる店づくりのための新しい施策を、多様な層を巻き込みながら考えカタチにする、「島とつながり島と共に成長する」飲食店として実施する予定です。その企画の一つとして、「東京六大学プロジェクト」という、大学生がフェアのメニュー選定・店舗内装などを作り上げる企画を行なっています。今回は、東京六大学プロジェクトのうち、慶應義塾大学の企画となります。

URL：<http://ritokitchen.com/>

4. 鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島について

口永良部島は、屋久島から北西に 12km の位置にある島で、別名緑の火山島とも呼ばれるほど自然豊かな環境が残されています。四季折々の山菜や果物が採れ、美味しい魚介類が採れるため、島内ではそれを活かした料理が食べられています。

人口は約 100 人で、産業は農業・漁業などの第一次産業、インフラ整備などの第二次産業、民宿や学校といった第三次産業があり、商店は島で 2 軒のみとなっています。小さな島のため、互いに助け合い、島で必要な仕事を分担することが欠かせません。2014 年、2015 年と二度、活火山である新岳の噴火が発生し、約 7 ヶ月の全島避難を余儀なくされたこともあります。その後無事帰島し、現在は噴火前の生活に戻りつつあります。

アクセスは、屋久島から 1 日 1 便の町営船フェリー太陽で約 1 時間半です。

URL：口永良部島ガイド協会 <http://kerabu.eco.coocan.jp/>

口永良部島ポータルサイト <http://kuchinoerabu-jima.org/>



※ご取材の際には、事前に【本件のお問合せ先】までご一報くださいますようお願い申し上げます。
※本リリースは報道各社社会部等に送信させていただいております。

【本件のお問合せ先】

慶應義塾大学 環境情報学部 長谷部葉子研究会 屋久島町口永良部島プロジェクト

Mail : hasebe.laboratory@gmail.com

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

Mail : kri-pr@sfc.keio.ac.jp

TEL : 0466-49-3436

FAX : 0466-49-3594